



生きた制度を 創るということ

自治行政局選挙部管理課

清水 慶子

SHIMIZU Keiko

平成23年 4月 総務省採用
大臣官房秘書課

平成24年 4月 自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室

平成25年 4月 島根県地域振興部地域政策課

平成26年 4月 島根県地域振興部市町村課

平成27年 4月 現職

『国を動かす一票のために』

私が所属する選挙部管理課は、主に国政選挙の管理執行事務を担当しています。管理執行と言ってもその業務は多様であり、予算確保から各省・企業との調整、啓発、立候補届出審査、投開票速報等、全国の自治体と連携して取り組んでいます。選挙を終えてからも、次回に向けて改善点を洗い出し、必要があれば制度改正や運用方法の見直しを図ることとなります。

特に、先般行われた参院選は、選挙権年齢引下げ後、初の国政選挙ということで世間から非常に注目された選挙でした。国としても啓発活動はもちろん、一人でも多くの方に選挙に行ってもらおう、商業施設などが多く集まる場所に投票所を設置する等、投票しやすい環境の整備を自治体に呼びかけ、そのサポートを行いました。

今我々に求められるのは、選挙を単に執行するだけではなく、「国民の皆さんが政治参加する重要な機会としての選挙」を考え、日々の業務に取り組むことです。

『一人一人の経験が生かされる職場』

国で仕事をしていると「なぜ制度を改善したのうまくいかないのか？」ともどかしく感じる事があります。制度は作ることが目的ではなく、運用されて初めて生きるものだからです。総務省は、若手のうちに県庁へ出向する機会があり、私も島根県庁に2年間赴任していましたが、県内の市町村を回るたび現場の厳しい状況や声を見聞きして、制度の先にこうした現実があるという事を痛感しました。

この感覚は、特に地方自治制度を所管する私達にとって最も基本的であり、重要なものですが、それを身をもって経験する場を与えてくれ、国として制度に還元する事ができるのは総務省ならではの魅力です。

また、総務省のもう一つの魅力は“人”です。私が学生の時、総務省に入ることを決めたのは、官庁訪問の際、どこよりも職員の方の話が面白い!と思ったのがきっかけです。それは各職員が多様なフィールドで活躍してきた証拠なのです。皆さんも一度話を聞きに来ませんか?

Some One Week

Monday

ある選挙区で補欠選挙を行うことが決定。予算確保のため、すぐに必要経費を計算します。

Tuesday

財務省へ予算要求説明。細かい点まで質問を受けますが、粘り強く対応します。

Wednesday

県から補欠選挙の相談。過去の事例を調べ、現在でも通用するのか検討し、回答します。

Thursday

候補者の選挙運動用葉書の取扱いを事業者と打ち合わせ。ミスがないよう万全を期します。

Friday

財務省から予算の承認が下りました。今日は予算担当で打ち上げに出かけます!



Private Time



休日は、様々な体験教室やイベントに行くのがマイブームです。最近では陶芸や江戸子作りに挑戦しました。また、出向していた島根県には今でも定期的に遊びに行っており、レガッタ大会への参加や、海水からの塩作り体験、トビウオを捌いてあご野焼き作り体験等、東京ではできない珍しい体験ができるので新鮮です!